



□前號『白峯の麓』は普通號と致し候につき、講話も續稿もあり問答欄も有之候なほ挿入されたる四葉の原色版は甚だ出來よろしく候間、未だ御覽なき諸君は至急御注文給はり度候

□本號口繪『初冬』は東京近郊の寫生にしてOw紙四ツ切大に候

□『能面』はワットマン八ツ切に御座候。これは靜物寫生を試みんとせらるゝ方の好參考と存候

□『雪の山』は信州飯田街道大田切邊よりの寫生にして原畫は八寸に一尺二寸大に御座候

□一月號原色版挿繪は、中澤弘光氏の『奈良の町』G. Dupuis 氏の『巴里の河岸店』大下氏の『湯ヶ島』にして、他に石版畫一葉を加ふる筈に御座候

□記事にはハリソン氏の『光の振動』及『靜物寫生の話』『三脚物語』及本號の續稿を掲載いたすべく候

□一月號は二十日過には製本出來、多分

年内に郵送致し得へく存候に付、届先御變更の御方は二十日前に御通知給はり度、發行間際にては或は變更先に參らぬことに可相成候

□會友諸君にして、文房堂彩料具割引券御入用の方は返信料を添へて申出相成度候

講習會出席の方へ

△今度靜岡で開く講習は、極短期ではあるが、朝から夜迄やるので、一日十時間程にあたるから、五日間でも十日以上の價値がありまた利益があらう。

△朝は八時若くは九時頃から始業して、極初學の人には靜物を半日やらせる、少しでも出來る人は戶外寫生をする、午後は全體戶外寫生で、暖かい土地だから夕景迄筆は持てやう。夜分は二時間水彩畫の講話がある、これは六日の夜迄八時間やるつもり。

△七日には、午前寫生、午後はすべての製作を一堂に陳列して一々比較批評を、試み、個人の長所と欠點とを指摘して、

將來獨習してゆく人のために指針を與へる。七日の夜は茶話會でも開いて解散する筈である。

△講師は、水彩畫の參考品を數十枚携帯して、會員に見せ説明をする筈。

△入會した人は、道具類は洩れなく持參すること、道具が不完全であると愉快に製作が出來ない。

△水彩畫の紙はワットマンが一番よい。

△スケッチングブロックでなく、一々水貼した方がよい、木炭紙や水彩畫用紙とかいふ目の荒い紙は使ひにくい。

△繪具は是非一通り揃へたい、またどれも軟らかにして使ひよいやうにして置たい。

△筆は夏毛といふのがよい、毛の尖きのあまり柔らかいのはいけない。

△用具は靜岡に賣店があるさうだから、大概なものは間に合ふであらう。東京で買ふのなら出席者に限り返送料を添へて御申越になれば文房堂の割引券をあげ

* * * * *